

いわき民報

行所 民報社
地址 平田町四八番地
電話 一七六六
編集長 八千輝克巳
印刷 八千輝克巳
(但月報を除く)
定価 一月十部五十部

縣炭協も解散必至か

近く臨時大會で態度決定へ

炭連及び日鐵の炭産協成に伴い、縣炭協も急遽臨時大會を開催、態度を決定するの必要に迫られて来たが、大体炭連系と日鐵系が多数を占めているので、分裂は必然のこととなつて居るので、結局これを因として縣炭協も解散するまでも一應解散されてしまふことは免れないこととなつた。なお常磐炭田の現有勢力は、日鐵系三十三組合六千五百名、炭連系は常磐炭田で一万二千名あり、全炭系は僅かに矢張り、常磐不動産、大正第二坑の一千名程度となつて居る。

日鐵緊急擴大委員會

今後の闘争方針等について協議

日鐵連盟では去る十日から開かれた炭産協成全國協議会の配給基準は一人から五人(炭全協)第五回臨時全國家族までが平均炭一俵新大大會で新役員の承認方法から把三把程度となり五人以下は後に全日本炭産協成(全炭)と日本炭産協成連合(炭連)及び日本山形炭産協成(日山)と對立、炭連及び日鐵は炭全協を脱退したのに對し、十四日前十時より本社ホールの緊急擴大委員會を呼び出し、日鐵金光會長から脱退に至つた經過報告があり今後の闘争方針その他について協議の結果、常磐炭田連絡委員會等も急遽招集すること等を申合せた。なお脱退した炭連及び日鐵では資金問題の共同闘争委員會も組織し、この委員長は炭連會長たる武蔵武雄氏が推された。

教育の質向上に

父兄運営委員會結成

學童の教育は學園だけの教育であつてはならず、常に父兄側の努力を待たなければ完全なる教育の質向上には困難であるとの見解から、今年第三小學校では各級毎に父兄會(P.T.A.)を組織することに、新たに父兄運営委員會なるものを定めることとした。同委員會は兒童の學用品購入に對する問題とか、給食の問題、その他學校教育に關する事項とかの問題を學校側と協力兒童の心身向上に關するもので大きな期待をかけられて居る。

消防委員會

市の消防條例委員會は十六日午後一時から市會議室に給與服務規程及び救急條例等の設定について協議する

木炭配給

五人まで月一俵に新大把三把か

搬出關係や水産關係等で生産額の本縣も今冬の木炭事情はかねて資金五千円をかけて、相替に苦しいものがあるため論文「増産への道」を募集集中から平田炭産協成林産組合に對する調査も現在より縮小される。確定数量はまだ

鯛の食へ

ぬわけは

珠算二 平商工會議所主催
檢定 催算檢定試験
は十九日平商新校舎で進行。

悪少年御用

漫本町字檜原無敵石田良三

漫本町字檜原無敵石田良三(一七)一傳名は去る三月同町内で二十三才位の男に因縁をつけ外装を強奪した外、去る三月には同町本座で樂團の襲撃中、隣席の二十二才の若者へもよつとお前の腕時計を奪せと強要これを取上げ又八日夜十時頃町町取立立業宅へ服の修理を口實に家人の留守を狙つて同家にあつた中古外装一着、中古古物上下、ジャンパー等を盗んだ事發覺、現物強奪罪で平塚へ検送。

炭一人五、一トン平均

常磐炭田の勞務者現況調べ

東部石炭産業協會管内の現在勞務者調査が、男女性別に見ると男三萬五千六百六十五名、女六千七百四十五名で勞務者の比率は二六・五％である。又同管内の全勞務者の就職率は九一・二％で一人當り炭高は五、一トとなつて居る。

なお勞務者家族は東北六萬三千四百三十八名、東部一萬八千八百十四名、職員數は東北三十四十一名、東部千八百四十四名の計四萬二千二百六名で對勞務比率は一〇％となつて居る。

外科開設

木村 將 義
木村 寅次郎
木村 病院
平市新川町三九(電二六四)

紙工品

卓上日記製造元
高級名入カレンダー
蚊籠堂印刷工業株式會社
東部中央區小樽町一丁目電話四四六四
出張所 平市榎小路二九
所長 藤田 豊 高

耳鼻咽喉科

高柳醫院

高柳 博 明
平市藤前(電九九九)

釜屋商店

(在庫豐富即納)
平市

ガ層(新)ストープ(時田式)

昨年御注文ニ應ジ切レズ
失禮致シマシク
釜屋商店

父兄運営委員會結成

佳作十三名であつた
一等 常磐炭田連絡委員會
同管内炭産協成各級
常磐炭田連絡委員會、同郡
可動の助に佳作常磐炭田連絡
委員會が十一名

機械用具 高平 商店

水道用具 平市立町七

増産への道

論文入選者

常磐炭田連絡委員會では、去る三月に「増産への道」を募集集中から平田炭産協成林産組合に對する調査も現在より縮小される。確定數量はまだ

食糧増産の先覚者

澤村勝爲と三森治右衛門

一草野村復興三森氏の資料による一 鈴木光四郎

更に草野村復興の資料は當時の状況を次のように示している

慶安三寅歳の六月大旱損以水不自由の場所にて長々

名には似ぬ泉崎にて水に飢

堤防耕作は確く法度

縣が治水上の重大問題として

戦時中食糧増産の建前から河川敷や河川堤防への耕作も許

慰問を實況放送

湯本自治會館から

石炭等の共催にかゝる炭礦慰問演劇會は二十三日午前内郷

の意は遂に勝爲をして江防

「此一首の返歌を以て薩摩

彼は自己の知行五百石のうち

計一個と被付反物一反(時

その定でこれを同町の某百

あらゆる百貨を

凡ゆるサービステ

百貨卸問屋

さかや百貨店

計理士。税務代理士

桑原トオル

電話(平)8.5